

平成21年度



# 学力定着度調査

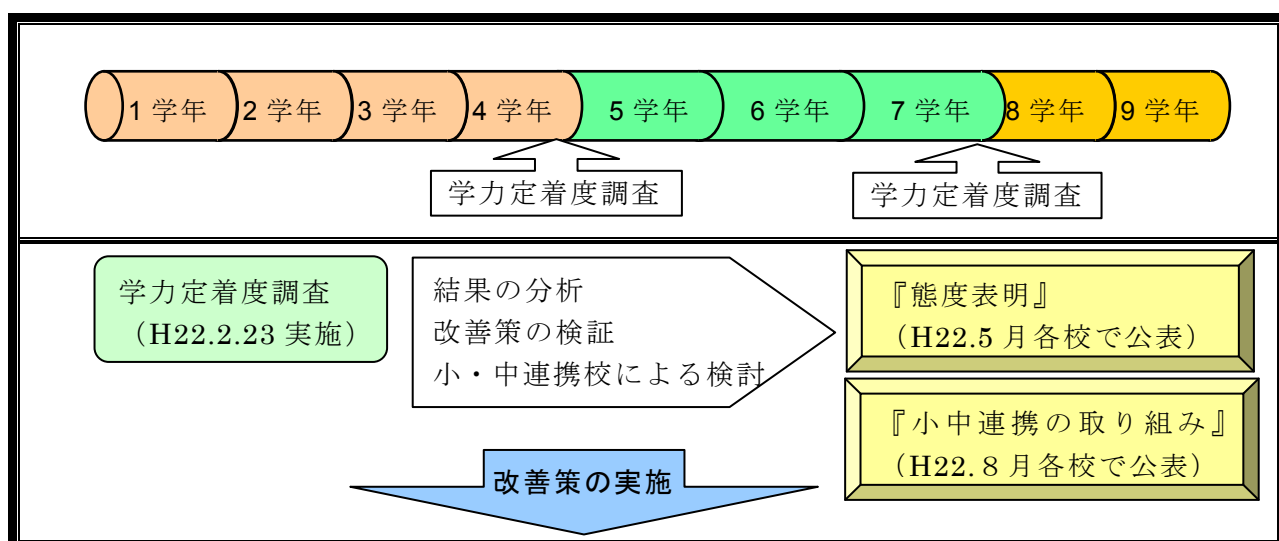
品川区立後地小学校

品川区においては、特に知識や技能を中心とした定着状況を検証し、児童・生徒の基礎・基本にかかわる学力の定着状況を明らかにするとともに、指導方法の改善や教員の資質向上を図るため、平成15年度から6年生を対象に品川区独自の学力定着度調査を実施してまいりました。

さらに、平成18年度より小・中学校がお互いのよさを生かすための一つの仕組みとして、9年間を通して系統的な教育活動を実現する小中一貫教育を進めています。この小中一貫教育は、義務教育9年間をひとまとまりとしてとらえた上で、1～4年生で基礎・基本の徹底を図り、5～7年生ではできるだけ自分の学び方にあった方法で基礎・基本の定着に重点を置きます。さらに、8・9年生では教科、内容の選択の幅を増やし、生徒の個性・能力を十分に伸ばすことを目指し、教育課程を「4-3-2」の三つのステージで編成しました。

このように教育課程に特色をもたせたことにより、それぞれの段階で確実に定着しているかどうかをしっかりと評価し、課題を明確にしていく必要があると考え、平成18年度からは4年生および7年生を対象に調査を実施することにいたしました。

各小・中学校ではその調査結果をもとに何が課題なのかを分析し、課題解決のために何をどのように改め、いつまでにどの程度の成果を出すのかを具体的な数値や根拠とともに明らかにし、継続して取り組むことや改善すべき指導方法などを、『態度表明』として公表します。また、連携をしている小・中学校において、7年生の結果をもとに、5～7年生の課題と今後の改善・対策を『小中連携の取り組み』として公表します。



## 学力定着度調査の方法と内容です

①	調査は誰を対象としていますか	・ 平成21年度品川区立小・中学校に在学する4年生の児童および7年生の生徒全員です。
②	実施したのはいつですか	・ 平成22年2月23日（火）です。各小・中学校を会場とし、連携校の教員が監督者として実施しました。
③	問題はどのような構成になっていますか	<p>&lt;4年生&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題数は、国語科41問、算数／数学科44問です。</li> <li>・ 品川区小中一貫教育要領の内容に沿った「基礎基本の問題」を中心に今年度から「活用に関わる問題」も出題しました。</li> </ul> <p>&lt;7年生&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題数は、国語科46問、算数／数学科45問です。</li> <li>・ 品川区小中一貫教育要領の内容に沿った「基礎基本の問題」を中心に今年度から「活用に関わる問題」も出題しました。</li> </ul>
④	問題はどのような内容ですか	<p>&lt;4年生&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校4年生までに学習する国語および算数に関する内容で、特に、「読み」「書き」「計算」といった「知識や理解」「技能や表現」という観点から問題を作成しました。</li> </ul> <p>&lt;7年生&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校5年生から中学校7年生の間に学習する国語科および算数／数学科に関する内容で、特に、「読み」「書き」「計算」といった「知識や理解」「技能や表現」という観点から問題を作成しました。</li> </ul>

## 各小・中学校は「習熟基準」をもとに分析します

各小・中学校は、「習熟基準」をもとにして、各学校の「正答率」を分析し、学力定着の状況をつかみます。そこから指導改善の具体的な対応策を考えていきます。

各小・中学校のホームページでは、「習熟基準」と「正答率」を百分率（％）で示しています。

「習熟基準」とは、問題ごとに全体の中でどのくらいの子どもたちに正答してもらいたいかという人数の割合を示したもので、品川区小中一貫教育要領をもとに教育委員会が設定したものです。この「習熟基準」は問題の難易度によって異なります。

「正答率」とは、問題ごとに、それぞれの学校において実際に正答した子どもたちの数の割合を示したものです。

各小・中学校では、この「正答率」を「習熟基準」に照らして、学力の定着状況を判断していきます。「習熟基準」よりも「正答率」が上回っていれば、この問題に対する定着状況はおおむね良好であると言えます。

## 後地小学校の態度表明

### 【結果の概要】

#### 国語

国語の内容別評価と正答率	習熟基準	本校正答率
漢字の読み	79.5%	▼74.7%
漢字の書き	71.0%	▼69.8%
文法に関する知識	73.3%	78.5%
語句に関する知識	73.0%	84.0%
文学的な文章の読み取り	81.3%	▼80.6%
説明的な文章の読み取り	78.0%	▼73.3%
作文	70.0%	▼52.2%

#### 【結果の分析】

##### ○ほとんどの内容で習熟基準を下回っている。

昨年度は、ほとんどの内容で習熟基準を上回っており、平成15年度から本校が取り組んできた国語の研究の成果が文法、語句、読解、作文の力として表れてきておりました。しかし、今年度は、品川区の平均よりは上回っているとはいえ、7項目中5項目の内容が、習熟基準を下回ってしまっています。21年度からは英語の研究に取り組んでいる本校ですが、母国語としての国語の学習にも引き続き力を入れていく必要があると考えます。

##### ○「文法に関する知識」「語句に関する知識」は習熟基準を上回っている。

「たけのこタイム」として朝の25分間、週3コマの帯時間を設定し、「漢字」「言語事項」の反復練習と「読書」を実施しています。継続的に取り組むことで、「文法」「語句」の言語事項に関しては学習内容の定着が見られます。しかし、同様に継続的に反復練習に取り組んでいる「漢字」は、「漢字の書き」だけでなく「漢字の読み」も今年度は習熟基準を下回ってしまい、まだ十分定着していないことがわかりました。

#### 算数

算数の内容別評価と正答率	習熟基準	本校正答率
数と式の意味と計算	80.4%	91.6%

量と測定	75.0%	79.4%
図形と計量	73.8%	85.0%
数量関係	66.7%	90.4%
資料の分析	70.0%	82.8%

### 【結果の分析】

○「数と式の意味と計算」「量と測定」「図形と計量」「数量関係」「資料の分析」はすべて習熟基準を上回っている。

全体として、学習内容がたいへんよく身に付いています。

習熟基準に達しなかった内容を細かく見てみると次の通りです。

- ・「数と式の意味と計算」…「減法を適用して文章問題を解く」
- ・「量と測定」…「2つの時刻の比較」
- ・「図形と計量」…「式にあった図の選択」

算数学習の基礎となる計算は、100%の正答率の問題も6問あり、よく身に付いています。習熟度別少人数学習の成果が現れていると考えられます。特に、「数量関係」は習熟基準に比べて正答率が高く、四則計算の決まりを児童の理解の段階に応じてきめ細やかに指導した成果が表れたと考えられます。「2つの時刻の比較」は昨年度に引き続き、習熟基準を下回っているため、学校全体での対策が必要です。

## 【結果の分析と解説】

### 〔国語科〕

#### (1) 漢字

##### ①読み

「漢字の読み」については、「品川区小中一貫教育 国語科 漢字ステージ100」3・4年生までの配当漢字の中から10問が出題されました。その結果、全児童の正答率が習熟基準を上回った問題が5問で、下回った問題が5問でした。本校の正答率の平均は、全体の習熟基準の平均を5ポイント程度下回りました。昨年度は3ポイント上回っていた内容であるため、努力を要する状況であると判断できます。

##### ②書き

「漢字の書き」については、「品川区小中一貫教育 国語科 漢字ステージ100」3・4年生までの配当漢字の中から10問が出題されました。結果は、習熟基準を上回った問題が4問、下回った問題が6問でした。本校の正答率平均は、全体の習熟基準を約1ポイント下回りました。昨年度より正答率が上がってきてはいるものの、漢字の書きについては、引き続き努力を要する状況であると判断できます。

## (2) 言語事項

「言語事項」については、「文法に関する知識」3問と「語句に関する知識」5問の計8問が出題されました。結果は、習熟基準と同じか上回った問題が6問、下回った問題が3・4年生の内容の「接続語の働き」と「熟語の構成」の2問でした。本校の正答率の平均は、全体の習熟基準を「文法」で約5ポイント、「語句」で11ポイント上回りました。学習内容の定着度は、十分満足できる状況にあると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	正答率
① 主語・述語の関係をとらえることができる。	1・2	60%	60.0
② 修飾・被修飾の関係をとらえることができる。	3・4	70%	88.9
③ 接続語の働きをとらえることができる。	3・4	90%	▼86.7
④ ローマ字を理解し、読むことができる。	3・4	55%	88.9
⑤ 類義語を使い分けることができる。	3・4	90%	97.8
⑥ 多義語の意味がわかる。	3・4	85%	95.6
⑦ 熟語の構成がわかる。	3・4	75%	▼64.4
⑧ 国語辞典の使い方がわかる。	3・4	60%	73.3

## (3) 文学的文章

「文学的文章」については、4問が出題されました。結果は、習熟基準を上回った問題が2問、下回った問題が2問でした。特に、「登場人物の様子を読み取り」で約23ポイント下回っている問題があり、大きな課題です。本校の正答率の平均は、全体の習熟基準を約1ポイント下回りました。昨年度は全ての問題で習熟基準を上回っていた内容なので、努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	正答率
① 叙述をもとに、場面の様子を読み取ることができる。	3・4	90%	▼88.9
② 叙述をもとに、登場人物の様子を読み取ることができる。	3・4	85%	▼62.2
③ 叙述をもとに、場面の様子を読み取ることができる。	3・4	75%	86.7
④ 叙述をもとに、登場人物の様子を読み取ることができる。	3・4	75%	84.4

#### (4) 説明的文章

「説明的文章」については、5問が出題されました。結果は、習熟基準を全ての問題で下回りました。特に、「細かい点の読み取り」で約11ポイント、「段落の要点の把握」で約7ポイントと大きく下回っており、課題が見られます。

本校の正答率の平均は、全体の習熟基準を約5ポイント下回りました。学習内容の定着度は、昨年度に引き続き、努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	正答率
① 細かい点に注意して文章を読むことができる。	3・4	85%	▼84.4
② 細かい点に注意して文章を読むことができる。	3・4	80%	▼68.9
③ 内容を大きくまとめながら文章を読むことができる。	3・4	75%	▼71.1
④ 内容を大きくまとめながら文章を読むことができる。	3・4	85%	▼84.4
⑤ 中心となる語や文をとらえて、段落の要点をとらえることができる。	3・4	65%	▼57.8

#### (5) 作文

「作文」については、4問が出題されました。結果は、「相手や目的に応じて適切に書くこと」のみ、習熟基準を上回り、「相互段落の関係を考えること」「書く事柄の収集や選択」に関する3問は下回りました。特に活用問題の「書く事柄の収集や選択」の正答率が低く、非常に努力を要する状況です。

本校の正答率の平均は、全体の習熟基準を約10ポイント下回りました。昨年度は、10ポイント以上上回っていた内容なので、非常に努力を要する状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	正答率
① 相手や目的に応じて、適切に書くことができる。(121~180字で書く)	3・4	75%	98.9
② 考えが明確になるように、段落相互の関係を考えることができる。(二段落構成で書く)	3・4	65%	▼48.9
③ 書く必要のある事柄を収集したり選択したりすることができる。(第一段落) <b>(活用問題)</b>	3・4	65%	▼27.8
④ 書く必要のある事柄を収集したり選択したりすることができる。(第二段落) <b>(活用問題)</b>	3・4	75%	▼63.3

## 〔算数〕

### (1) 計算

「計算」については、1 学年～4 学年までの計算技能の定着度をみるため、「数と式の意味と計算」から 17 問と「数量関係」から 3 問の計 20 問を出題しました。

結果は、全て習熟基準を上回り、加法、減法、かけ算九九の問題では、100% の正答率を示しています。学習内容の定着度は、十分満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	正答率
① (1 けた)+(1 けた)=(2 けた)の加法の計算ができる。	1	90%	100
② (十何)-(1 けた)=(1 けた)の減法の計算ができる。	1	90%	100
③ 2 けた+2 けた(くり上がり 2 回)の加法の筆算ができる。	2	90%	100
④ 3 けた-2 けた(くり下がり 2 回)の減法の筆算ができる。	2	90%	91.1
⑤ 同分母の真分数の加法の計算ができる。	4	80%	91.1
⑥ 同分母の真分数の減法の計算ができる。	4	80%	93.3
⑦ 7 の段の九九ができる。	2	90%	100
⑧ 2 けた÷1 けた(余りなし)の除法の計算ができる。	3	90%	100
⑨ 2 けた÷1 けた(余りあり)の除法の計算ができる。	3	90%	93.3
⑩ 2 けた×2 けたの乗法の筆算ができる。	3	70%	88.9
⑪ 3 けた÷2 けた(余りなし)の除法の筆算ができる。	4	70%	97.8
⑫ 小数+小数の加法の計算ができる。	3	90%	91.1
⑬ 小数-小数の減法の計算ができる。	3	80%	95.6
⑭ 整数-小数の減法の計算ができる。	3	80%	93.3
⑮ 小数(小数第二位)+小数(小数第三位)の加法の計算ができる。	4	70%	86.7
⑯ 小数(小数第一位)×整数の乗法の筆算ができる。	4	70%	86.7
⑰ 小数(小数第一位)÷整数の除法の筆算ができる。	4	70%	95.6
⑱ 四則混合の式の計算ができる。[数量関係]	4	70%	91.1
⑲ ( )を含む四則混合の式の計算ができる。[数量関係]	4	70%	100
⑳ 計算のきまり(分配法則)を理解し、四則混合の式の計算に利用できる。[数量関係]	4	60%	80.0

## (2) 数と式の意味と計算

計算以外の「数と式の意味と計算」については、8問を出題しました。  
結果は、8問中、7問で習熟基準を上回りました。「減法を適用して文章問題を解く問題」については、習熟基準を1.1%下回りました。計算力は定着しているものの、文章を読み取って立式することが苦手と判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	正答率
① 減法を適用して、文章問題を解くことができる。	1	90%	▼88.9
② 十進位取り記数法の考え方を理解し、与えられた数字で最も小さい数をつくることができる。	2	80%	86.7
③ 命数法で書かれた数を記数法で表すことができる。	4	80%	97.8
④ 千の位までの概数の表し方を理解している。	4	70%	80.0
⑤ 3けた÷1けた（余りなし）の除法を適用して、倍の文章問題を解くことができる。	4	70%	84.4
⑥ 数直線上に示された小数をよみとることができる。	3	90%	97.8
⑦ 1/1000の位までの小数の表し方を理解している。	4	80%	91.1
⑧ 帯分数、仮分数、真分数、整数を大小順に並べることができる。	3	60%	60.0

## (3) 量と測定

「量と測定」については、4問を出題しました。  
結果は、習熟基準を上回った問題が3問、下回った問題が「2つの時刻の比較」の1問でした。  
「量と測定」全体の正答率は、習熟基準を4.4ポイント上回りました。学習内容の定着度は、満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	正答率
① ある時刻から一定時間を経過した時刻を求めることができる。	3	90%	91.1
② 2つの時刻を比較して、その間の時間を求めることができる。	3	70%	▼60.0
③ 1ℓ=1000mℓを理解し、身近にある容器の容量を推測して適切な単位を用いることができる。	3	70%	88.9
④ ひょう量2kgのはかりの目盛りを正確によみとることができる。	3	70%	88.9

#### (4) 図形と計量

「図形と計量」については、8問が出題されました。  
結果は、「式に合った図を選ぶ」という1問以外の問題で習熟基準を上回りました。「図形と計量」全体の正答率も、習熟基準を11.2ポイント上回りました。学習内容の定着度は、十分満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	正答率
① km、m、cm、mmの長さの単位について理解し、状況に応じて適切な単位を用いることができる。	3	80%	77.8
② 点アを中心に $35^\circ$ の角の作図ができる。	4	70%	77.8
③ 正方形の中の一部(長方形)がぬけた図形の面積を求める式が与えられているとき、その式に合った求め方を示す図を選択することができる。	4	70%	▼60.0
④ 長方形の特徴を理解し、その特徴にあてはまらない図形を選ぶことができる。	2	80%	97.8
⑤ 直角三角形の特徴を理解し、様々な図形から弁別できる。	2	70%	82.2
⑥ 箱を構成するのに必要な辺や面の数がわかる。	3	70%	86.7
⑦ 二等辺三角形の定義を理解している。	3	70%	91.1
⑧ 円の半径について理解している。	4	80%	95.6

#### (5) 資料の分析

「資料の分析」については、4問が出題されました。  
結果は、すべての問題が習熟基準を上回りました。全体の正答率は、習熟基準を12.8ポイント上回りました。グラフを読み取る活用問題についても正答率が高く、学習内容の定着度は、十分満足できる状況であると判断できます。

出題のねらい	履修学年	習熟基準	正答率
① 表の値を棒グラフに表すことができる。	3	90%	93.3
② 二次元表のよみ方・かき方を理解している。	4	80%	91.1
③ 折れ線グラフと棒グラフを正しくよみとることができる。 <b>(活用問題)</b>	3・4	60%	80.0
④ 2種類のグラフをよみとり、問題を解決することができる。 <b>(活用問題)</b>	3・4	50%	66.7

## 【結果から明らかになった課題】

### 〈 国 語 〉

#### ①漢字の読み・書きの力の定着を図る。

漢字を書く力については、昨年度に比べると伸びが見られますが、読む力・書く力共に一層の定着を図る必要があります。4年生は学年配当漢字に加え、「漢字ステージ100」で5年生の漢字も学習するため、年間に学習する漢字の量はかなり多いものとなります。そのため、一度覚えた漢字を忘れてしまう児童も多く、十分な定着が図れていません。また、漢字に苦手意識をもつ児童もあり、漢字を覚えて使おうとする児童と日常生活では既習漢字をあまり使わない児童との間に差が生まれてきています。

定着を図るために、計画的に漢字学習を進めながら、継続的な徹底反復練習に今年度も取り組ませていくことが大変重要です。また、漢字に興味を持たせ、児童が意欲的に漢字学習に取り組める活動を行ったり、様々な学習活動を通して、漢字に触れる機会を多く作ったりすることも大切な手だてとなります。

#### ②文学的文章の理解力を向上させる。

文学的文章では、「登場人物の様子の読み取り」に課題が大きく見られました。普段の学習の中でも、文章を読むこと自体に抵抗をもっている児童が見られます。登場人物の様子を読み取るには、叙述をもとに、物語の状況を正しく把握させることが大切です。その上で、人物の心情を叙述や表現と関係づけて読み解いていく指導が必要となります。また、読書を通して多くの文学的文章に触れることで、読むことの抵抗を取り払い、楽しさに気付かせていくことも大切です。読書活動は、叙述をもとに場面や登場人物の様子を読み取っていく経験を積んでいくことにもつながります。

#### ③説明的文章の理解力を向上させる。

説明的文章では、全てが習熟基準を下回り、一番課題が大きい学習内容となっています。特に、「細かい点の読み取り」や「段落の要点の把握」に課題が大きく見られました。説明的文章では、話の展開をふまえ、筆者の言いたいことをきちんとつかむことが大切です。そのためには、指示語の示す内容をきちんととらえ、一つ一つの文章に書かれている内容や各段落の要点を正しく読み取る力を付けることが必要です。段落構成について考えられる力を育てることも大切です。また、主語や述語などの文の構成を正しく理解する力を付けることも、文章を正確に読み取る力につながります。

#### ④作文を書く力を向上させる。

「相手や目的に応じて適切に書くこと」は、98.9%の児童ができていますが、「相互段落の関係を考えること」と「書く事柄の収集や選択」に課題が見られます。説明的文章の読解でも課題であった、論理的な思考力を育てることが必要です。また、文章を書くときには、漠然と書かせるのではなく、目的を意識させ、取材の仕方を指導しながら書かせることが必要です。文章を読むこと同様、文章を書くこと自体に抵抗をもっていて、なかなか筆が進まない児童も見られます。文章を書いて自分を表現することの喜びも体感させていく必要があります。

### 〈 算 数 〉

#### ①文章問題の解き方を身に付ける。

文章からどの四則計算を用いたらよいかを判断できるようにする必要があります。そのためには、問題を解き慣れることも大切ですが、文章から場面を想定したり、具体物をイメージしたりする力を付ける必要があります。児童の実態に合わせた、きめ細やかな指導が必要です。

## ② 時刻や時間の求め方を身に付ける。

ある時刻から一定時間を経過した時刻や2つの時刻から間の時間を求めるなど「時刻や時間」に関する基本を日常生活に関連して身に付ける必要があります。授業では、具体物を使用したり、数直線を使用したりして、時間の捉え方を指導することが必要です。また、様々な機会を通して、時計に親しませることも大切です。

## ③ 図形の応用問題の解き方や、式の読み取り方を身に付ける。

図形の問題で、重さや体積などの単位あたりの大きさや、図形の定義を理解させるためには、操作活動を通して量感を育てることが必要です。また、式から面積を求める手順を読み取るためには、それぞれの式が求めているのはどの部分の面積なのかを、図に書き込んで考えさせることや、式の意味を考えて説明させる指導が必要です。

## 【今後の改善・対策】

### 1. 全校体制で基礎学力の定着を図ります。

- 学力向上全体の対応策については、校内の**学力向上委員会**が中心となり、漢字検定や算数検定の実施、家庭学習の課題検討など、より効果的な基礎学力の定着のための指導方法を提案し、全校体制で実践していきます。
- 校内で定期的に学力調査（GRT）を実施し、**全学級で結果の分析、課題の検証**を行いながら指導方法の見直し、改善を図っていきます。
- 朝読書の時間**を設け、全校体制で読書の習慣化を図ります。また、学校図書館運営スタッフ、図書ボランティアと協力しながら、読み聞かせの実施や読書活動充実に組織的に取り組みます。
- 5、6年生の**ステップアップ学習**については、担任以外の教員を含めて複数体制で指導にあたり、つまづきを克服するための指導体制を充実させていきます。

### 2. 個に応じた指導を充実させます。

- 学力調査やテスト結果を記録した児童一人一人の**個人カルテ**を作成し、補充的学習や発展的学習など学習課題を明確にさせながら個に応じた指導を充実させていきます。
- 5、6年生の**ステップアップ学習**については、児童の学力の実態に合わせ個に応じた（個別習熟度別）学習内容で取り組めるように教材を工夫するなど、学習環境を整備していきます。
- 算数では、1・2学年において**少人数指導**や**チームティーチング**による指導、3年生以上は学級担任・算数少人数担当教員・習熟度別学習指導助手による**少人数による習熟度別学習**を実施するなど指導体制を充実させます。

### 3. 家庭学習との連携を強化していきます。

- 家庭学習**の必要性を保護者に理解していただき、学校の方針として宿題を毎日出し、基礎

学力の定着を図ります。児童の習熟状況を把握しながら、身に付いていない内容については、基礎基本の徹底のために学年を越えて繰り返し指導していきます。

#### 4. 長期休業期間を活用し、基礎学力の定着を図ります。

- 夏休みに「サマースクール」、冬休みに「ウインタースクール」を設けて児童の実態に応じた学習課題を設定し、基礎学力の定着を図り、児童の意欲の向上と学力の向上に努めます。学年ごとの全体指導と共に、個別の指導を行います。全教員で指導にあたる他、地域や保護者のボランティアの協力を得るなどして、個々の児童にきめ細かく対応できるようにします。
- 長期休業中、家庭学習の課題を設定し、学習習慣の定着、基礎学力の充実を図ります。また、質問等には常時対応できる体制を整える他、休み明けテストを実施するなどして定着状況を検証していきます。

#### 5. 学習支援につながる学習相談を充実させます。

- 子供たちの主体的な学びを支えるために、学習へのつまずきや発展的学習の対応などに、授業以外でいつでも相談にのれるよう、放課後や休憩時間の学習相談を充実させます。

#### 6. 教員の授業力の向上を図ります。

- 授業での、具体物の取り入れ方や、児童が自分の考えを説明し合う活動の取り入れ方を教員が共有し合うために、教員が年10回、互いの授業観察を行います。

### 【学力の検証方法】

#### ①全学年全国版の学力調査（CRT）の実施

各学年の国語・算数のよりきめ細かな実態を掴むために前年度の全国版の学力調査（CRT）から課題となる単元や項目を明らかにしていきます。22年2月に再度学力調査（CRT）を行い本校の取り組みが効果を発揮したのかどうかをそれぞれの学級・学年で検証し、具体的な課題や改善策を考えていきます。国語、数学とも平均80%以上の定着率をめざします。

#### ②うしろじ版漢字検定・「漢字ステージ100」・算数検定の活用

教科書と「漢字ステージ100」の内容を中心とした、うしろじ版漢字検定達成率90%、計算問題を中心とした算数検定達成率90%を目指します。全校で達成状況を把握し、結果についての対応策を考えます。